

東アジア環境問題国際シンポジウム～東アジアの都市代謝と環境問題～

International Symposium on the East Asian Environmental Problems



平成23年11月14日と15日の2日間、福岡ガーデンパレスホテルにおいて、本学東アジア環境研究機構（R-EAE）の主催により「第5回東アジア環境問題国際シンポジウム（EAEP 2011）」が開催されました。5回目の開催となる今回は、日本および中国の共同研究者ら120名を超える参加者がありました。

開会にあたり、落合英俊R-EAE副機構長（本学理事・副学長）から挨拶がなされました。引き続き、大野木昇司氏（日中環境協力支援センター有限会社）及び島岡隆行教授（本学工学研究院）から、中国の低炭素政策と日中協力、そして廃棄物処理に関する基調講演がありました。

研究発表では、R-EAEが取り組む10の研究分野（都市環境、低炭素都市システム、フードリスク研究、水環境、砂漠化防止、生物生産環境、大気環境、海洋環境、環境化学、環境計画・政策）から、海外からの投稿論文18編を含む計40編の研究成果が発表され、若手研究者を交えた活発なディスカッションが行われました。2年ぶりの日本開催となるEA



全体セッションでのパネリストの写真

研究者にとじま
ルドとする研

平成2011では、当機構発のプロ

ジェクトである、中国メガシティにおける循環型廃棄物処理技術研究（都市環境グループ）や太湖の生態系調査（水環境グループ）、そして砂漠化研究の中核拠点形成（砂漠化防止グループ）の成果が発表されました。

翌15日には、多分野の問題が同時に発生する東アジアの環境問題に対し、分野横断的な研究機構であるR-EAEがなすべきこと、が議題に取り上げられました。EAEP 2011の副題であり、アジア全域で進行する都市化は、人口の集中により東アジアの環境問題をさらに進行させるのか、あるいは環境技術の整った都市に環境問題が集約されることで

問題が緩和されるのか、といふ議論が交わされました。議論には、

都市設計など
廃棄物処理や
都市をフイー



ポスター発表の様子

らず、生態工学や食品汚染、乾燥地研究など農村、自然環境での研究者からの意見が相次ぎ、都市化が東アジア全域の環境問題に直接に関わっている実態が浮き彫りとされました。

また現地の環境問題の解決を志向するR-EAEとして、最先端の環境技術の開発だけでなく、現地のニーズに適合した中間技術の摸索にも注力すべきであるなど、機構の今後の方針が提案されました。

R-EAEは発足から3年目を向かえており、構成する10の研究グループにより個々の研究プロジェクトが全て立ち上りました。2012年度には、得られた科学的知見を現地の環境問題の解決に適用する実証研究の段階に入ります。実証研究を進める上で欠かせない、中国の行政・研究機関との二ーズとR-EAEの活動とを調整し、連携を深める場として、この国際シンポジウムは今年も開催される予定です（EAEP 2012）。関係各位のご支援をお願い申し上げます。

（東アジア環境研究機構 特任准教授 宮沢良行）